



かがやけ憲法 キャラバンニュース

- ★北海道→青森→岩手→秋田→山形→宮城→福島→新潟→群馬→栃木→茨城→千葉
- ★山口→広島→島根→鳥取→岡山→香川→愛媛→高知→徳島→三重→岐阜→愛知→静岡→神奈川
- ★鹿児島→熊本→長崎→佐賀→福岡→大分→宮崎→兵庫→大阪→和歌山→奈良→京都→滋賀★
- ★福井→石川→富山→長野
- ★沖縄★

弾圧立法、戦争立法、稀代の悪法

秘密保護法は何としても廃案に!

●12/1~2 富山

富山県、富山労働局に要請



12月1日、富山でのキャラバンは宣伝行動を中心に行いました。2日はCIC前広場での街頭宣伝と富山県商工労働部と富山労働局へ要請しました。

県商工部には「労働法制の改悪をやめ、雇用の安定を求める」5項目を要請。県は「富山県の有効求人倍率は、北陸で比較して高めとなっており、労働相談件数は横ばいで減っている。県作成の『労働ルールブックとやま』は好評で、高校から要請があれば職員が行って話をすると述べました。

県労連からは、「冊子には県労連の意見も入れてもらったが、就職希望者だけでなく大学生、専門学校生にも知らせて啓発活動をしてほしい。パワハラやメンタルヘルスの相談が増え、精神疾患も、うつ病や成長障害などの相談が寄せられている。ヤングジョブ富山でのカウンセラーとの連携が出来ないか」と要請。それに対し県は、「若者サポートステーションで、発達障害の判定やトレーニングをしている。県だけでは駄目で、連携してやっていく事で良質な雇用になっていく」と述べました。

富山労働局との懇談では、「平成22年の国勢調査より、富山県の雇用労働者は44万2000人、正規は31万2000人と全国で2番目に多い。パートは11万8000人と少ないが、派遣は1万1000人(2・56%)、全国平均は1・07%と高い率となっている。法令の周知では、昨年から大学の学生に説明を行っている。また、雇う側に対しては、法の基本的枠組みなどを周知している。労働相談の1つの事案にもいろいろな問題があり、県労連に

相談があったケースを教えていただければ、アドバイスができる」と話しました。

●12/3 長野

長野県、介護事業所等と懇談

12月3日、8時から長野駅前で宣伝を行い25人が参加。「長野県内には300を超える草の根の九条の会があります。力を合わせて憲法を守りましょう」と、ティッシュに憲法キャラバンと秘密保護法の2種類のチラシを入れ配布しました。

9時から、民放労連加盟のテレビ信州労組と懇談。テレビ信州労組は、「ハードな仕事で組合活動になかなか手が回らない。リーマンショックの時期から少しずつ賃金を取り戻し、一時金では妥結した」と話しました。県労連からは、6日に開催される労働組合の枠を超えた秘密保護法の集会への参加等を訴えました。

10時から、長野県商工部雇用課と懇談。県は「有効求人倍率は、全国と差は開いているが、0・91倍と良くなっている。3000社を回り、短時間正社員制度を設けるよう要請。希望企業には社会保険労務士を派遣している。障害者雇用の要請もするなど雇用対策に取り組んでいる」と話しました。

12時30分から行った松本駅前での宣伝には10人が参加。秘密保護法の危険性、緊急集会への参加を呼びかけました。

14時から、介護事業所と懇談。事業所は、「常勤で安定することを基本にやってきたが、今の介護報酬では回っていかない。来年消費税は上がるし、介護保険は改悪。職員の定着率は3年6カ月くらいで、求人を出してもなかなか集まらない」と、介護現場の実態を話しました。

15時から、高齢者生協（ワーカーズコープ・組合員は3000人）と懇談。高齢者生協は、介護事業を中心に、NPO法人を立ち上げ、配食事業、共同墓地、小規模多機能デイサービス、指定管理で老人福祉センターなどに取り組んでいます。雇用関係は存在し、1人ひとりが事業主で、250人が働いています。

長野を出発し松本へ移動、そして明日の行動場所の上田へと、マラソンのように走り続けた行動となりました。



●12/3 千葉(2日目)

5駅頭で秘密保護法等について訴え



千葉に入ったキャラバン隊は2日目の12月3日、津田沼、市川、柏、おおたかの森、松戸の5駅を回り宣伝行動を行ないました。

石破官房長官の「官邸前デモは本質においてテロと同じ」とのブログへの書き込みについて、「表現の自由、言論の自由の意味をわかっていない。秘密保護法のテロの定義と重なる」と述べ、廃案を訴えた。「無期限派遣が可能になる派遣法改悪を許さない。4月からの消

費増税に加え、年金切り下げ、生活保護基準の引き下げなど社会保障制度の改悪は憲法 25 条の生存権の否定だ」と述べ、安倍内閣を批判しました。途中でティッシュがなくなり、チラシだけになりましたが、それでも 5 駅で、地元からたくさんの参加があり、のべ 63 人で 1200 枚のチラシを配布しました。

朝 8 時から宣伝を行った津田沼駅では通勤する労働者に訴えました。地元からも多く参加し 14 人で宣伝。船橋労連の事務局長や千葉県国公の方もマイクを握り訴えました。

市川駅では激励が相次ぎ、「がんばって」と力強く握手して行く方や、キャラバンカーに貼ってある消費税のポスターを見て「今からでも止められるのか」と聞いてくる人、秘密保護法は、「今からでも廃案にできるのか」と話しかけてくる人など、対話が進みました。

柏駅頭では、地元から 12 人が参加。民商や平和委員会からの参加もあり、賑やかな宣伝になりました。東葛労連の加藤事務局長は「柏市の子ども医療費無料化は小学校 3 年生までだが、全国的には中学 3 年生までのところもある」と述べ、住民福祉の向上を訴えました。

おおたかの森駅では、若者が近づいてきて、「自分はあちこちにメールで意見などを送っている。どうやったら廃案になるんですかね」と尋ねてきました。それに対し全労連の高橋副議長が 96 条改悪を世論の盛り上がりでストップしたことなどを知らせると、「わかりました」と笑顔で帰って行きました。また、年配の女性がピラを受け取り腰を伸ばして「大変な法律だねえ。あんな法律許しちゃいけないね」と声をかけてくれたり、中年の女性が「秘密保護法案ってなんなの？」と質問。説明するともう「大臣とか政府とかめちゃくちゃだね」と憤っていました。

松戸駅前では宣伝が終了したのは 16 時 30 分。薄暗くなった松戸の街をキャラバンカーは次の町に向かいました。

●12/3 埼玉(1日目)

「秘密保護法絶対反対、特定秘密何のため、原発事故を隠すため、特定秘密なんのため、戦争する国際すため、何が秘密それは秘密、こりゃ恐ろしい」4拍子のリズムでシュプレヒコール

500 人のデモ行進で市民に訴え

秘密保護法案を巡って緊迫した情勢が続いている 12 月 4 日、埼玉県に入ったキャラバン隊は、秘密保護法の制定を許さない埼玉の会とともに反対行動を行いました。12 時から埼玉県庁前で出発集会を行い、浦和駅までデモ行進。500 人が参加しました。終了後は浦和駅前で 60 人が参加し大宣伝行動を行いました。

出発集会で秘密保護法の制定を許さない埼玉の会会長柳弁護士(自由法曹団)は「石破幹事長のブログ問題で、秘密保護法案が目、耳、口を塞ぐだけではなく弾圧立法であり、戦争立法であることが明らかになった。なんとんでも廃案に」と訴えました。

全労連の高橋副議長があいさつ。稀代の悪法秘密保護法に対し、「山田洋次監督など 5 人が呼びかけ、吉永小百合や大竹しのぶなど映画人 269 人が反対声明を出している。2000 人を超える学者も反対声明を出している。全労連はくらし、雇用、平和を守れとかがやけ憲法キャラバンを行っている。おとといは千葉でも 500 人



が集まって声を上げた。国会前では連日行動が続いている。なんとしても廃案に」と訴えました。

生活の党の小宮山泰子衆議院議員から「内容だけでなく、審議内容も問題がある。最後まで反対する」とメッセージが寄せられました。

カトリックさいたま教区の代表があいさつし、「戦前、軍機保護法によりカトリック教徒 3000 人が奄美大島から転居させられた。軍機保護法の再来である秘密保護法は廃案にしよう」と訴えました。日本共産党の柳下礼子埼玉県議団長があいさつし、「県議会にも廃案にして欲しいとの請願が出されている。どんなことがあっても廃案に追い込む」と決意を述べました。

デモ隊は浦和駅まで「秘密保護法絶対反対、特定秘密何のため、原発事故を隠すため、特定秘密なんのため、戦争する国隠すため、何が秘密それは秘密、こりゃ恐ろしい」などと 4 拍子のリズムでシュプレヒコールを上げました。

秘密保護法の制定を許さない埼玉の会は、浦和駅前での宣伝の後、地方公聴会が行われる清水園のある大宮駅前で同様に宣伝。その後、清水園前で、廃案を訴え抗議行動を行いました。



かがやけ
憲法



全国縦断キャラバン2013